

## 令和4・5年度活動方針

公益社団法人 新潟県建築士会  
会 長 田中 隆司

2020年初頭から2年半続いている新型コロナウイルス感染症に関わる、これまでとは違う社会状況や経済活動状況、そして個人の環境や生活などのあらゆる変化に対し、今後どうすべきかの確固たる答えが見えている訳ではありません。しかし、新潟県建築士会として新たな事業年度が始まるに際し、私たちはこれからwithコロナそしてafterコロナを見据え、様々な生活様式や価値観が変わっていくのだということを前提として活動を計画・実施していかなければなりません。コロナが収まっても以前の状況に戻るのではなく、ますますデジタル化やAIなどを積極的に駆使した社会に向かっていくことと思われまます。

私たちはそういう状況を見据えた上で、これからも自己を高め、地域に貢献し求められる存在となるように頑張っていきたいと思います。

また、「会費の値上げ」や「事務事業および委員会制度の見直し」を行ってから2年が経過しました。継続的に実施してきた事業についても見直しを行い、**これまでの慣例にとらわれる事無く、現在の環境やニーズにあった活動を進めていきたいと思います。**

### 【重点事業】

- ① 次世代を担う若手建築士・女性建築士を主とした入会促進
- ② 令和5年6月開催の「関ブロ新潟大会」に向けての全会員による一致団結
- ③ 「建築士の日記念事業」を始めとする、地域社会へ向けた建築士・建築士会のアピール事業の開催
- ④ 地震災害、風水害雪害等の自然災害に対応できる、調査・復旧方法等対策の再学習と現実を想定した実務訓練の実施
- ⑤ 社会情勢や会の実情に合わせた、諸規程の総合的な見直し・整備
- ⑥ 参加して楽しい会をみんなで作る。

また重点事業に加えて、会としての大きな目的である「自己研鑽」と「社会貢献」に関して、以下のようなキーワードを思い浮かべて、充実した活動的な建築士会を目指しましょう。

## 1. 【建築士として必要な知識や技術力、役立つノウハウなどの習得】

- ・省エネ基準適合義務化へ向けた、確実な設計・施工の知識や技術の習得
- ・建築基準法「四号特例の縮小 2025 年度施行予定」に関する理解と対策
- ・BIM/CIM による 3 次元モデルを導入した手法技術の習得
- ・建物屋根・外壁点検調査分析、写真撮影等に活用できるドローン技術の習得
- ・建築関連他団体との合同研修会・交流会
- ・各種講習や学習のリモート化、Web 化など

## 2. 【建築士としての社会貢献、地域貢献の活動・実施】

- ・中古住宅等の断熱改修、耐震改修の知識・技術の再研修
- ・地域の歴史文化や資産を含めた歴史的建造物保存活用等についての学習と実務化
- ・空き家対策に関し、予防・利活用・適正管理等についての研修と実践。行政・他団体との協力
- ・既存住宅状況調査（インスペクション）の推進
- ・小中学生や高校・大学生などを対象とした、講話やワークショップ・見学会

基本的な事業の開催のあり方については、「**支部会員間の交流、支部の活性化を考え、できる限り支部やブロックで開催する**」こととし、本部は可能な限り、そこへの支援を行うものとします。

**人としての優しさ・思いやり・感謝の気持ちを大切にし、とにかくまずは活動に参加して、楽しくやりがいのある会にしていきましょう。**「face to face」の対面主義や、密に集うことにあまり重要性を置かれない時代の流れとなりつつありますが、人と人とのかかわりを五感で感じることは大切なことだと思います。雑談や思わぬ出会いから新たな展開が生まれることもあります。時代の流れに遅れることなく、努力して立ち向かって行くと共に、仲間同士で協力し合い、お互いに成長していきましょう。